

フレッシュ21

発行所 〒300-4205 つくば市安食2530-64 ☎FAX029(865)3321
発行人 眞新つくばジャーナル社 E-mail kuroda-seiji@ams.odn.ne.jp

この人

歌を通して仲間づくりを推進する

カラオケ同好会会長 皆藤久雄さん

知名度急上昇の活躍ぶり

このところこの人の活動が話題となっている。地元土浦市とくば市周辺の新開に折込まれている情報紙に相次いで紹介されている。先だっては東京のMC音楽センターで発行している「MC通信」一月号に、その活動ぶりが三葉の写真入りで報道された。MC通信はわが芸能界の専門紙と呼んでもよく一月号の記事の項を並べると

けでも一面に川中美幸の艶姿を大きく掲載、三ページまで小西良太郎との対談で飾り、次いでベギー・ヨン多岐川舞子、走裕介の「MSサート・リポート」、さらに新曲「メロディエー」に大石まどかの「ひとり橋」真咲よう子の「越前雪の宿」の紹介、ピックアーチスト佐々新一があり、芸能トピックスには水川よしし、山本譲二、タミコ、水森かおりなど演歌界の名人がずらりと顔を揃えている。

それらの記事に混じって皆藤さん主宰の「カラオケむつみ会」健康カラオケ花の活動が紹介されているのである。

まずは設立目的から皆藤さんに語ってもらった。「高齢化時代を迎えて、如何に楽しく年を取っていくか、自分に則して考えました。私は六十五歳の定年まで会社勤めでしたが、同世代の老後や自分自身の老後を六十感ふから考えるようになりました。音楽は好きだったが、特別歌が手というわけでは

ないし、カラオケに通いつづけたというわけでもない。「そんな何とかしたいという私の思いに、具体的な行動をこさせたのは、実は一冊の本なんです」

「その本は石川恭三著の『一定年の身仕度』というものでしたが、その本で第二の人生の生きつづかされたこと、その人生としてカラオケに導きつづけた皆藤さんの努力も敬服するが、カラオケ愛好会は作るのも

入会のも大変で、人気のあふる興味としては代表的なもの一つである。それでも皆藤さんは白紙の状態、近くにある社会教育センターへ通い、約百種の同好会の内容を調べてみた。そして結論としてカラオケを選び、自ら入会して自信を持ったという次第なのである。

「私がカラオケを選んだのは、先ず大声で歌い、ストレスの解消になること、歌詞を覚えることで脳トレにもなること、歌詞を理解することで心が豊かになる、さらに仲間が出来て雑談し

たり相談したり、孤独の淋しさを感ぜない、などの利点があると確信したんです」それから皆藤さんの勉強ぶりも、半端なものではなかった。何しろ酒席で一曲歌うことである。個人レッスンに通う傍ら前述のMC音楽センターの会員になり、さらに療法としてカラオケを導入しているという病院へも見学に行ったり医師の説明を聞いたりしたのである。現在は「むつみ会」の会長として指導にも当たるが、「一月三回、スタート時点では十一名でしたが、現在は二十五名を数え、増えつつある傾向です」とのこと。さらに皆藤さんは三年ほど前、もう一つのサークル「健康カラオケ花」を立ち上げている。



▲カラオケの効用を語る皆藤さん